

公明党要望項目一覧

平成27年度6月補正分

要望項目	左に対する対応方針等
<p>1 米子鬼太郎空港の活性化 本年8月にはスカイマークの撤退が決まっている。今後の新規就航を含めた誘致を推進されたい。</p>	<p>新たな航空会社の誘致に向けては、格安航空会社（LCC）を含む各航空会社の事業展開や経営方針などの情報を収集しつつ、精力的にエアポートセールスを実施する。 また、国際便については、特にこれまで多くの就航実績のある地域（香港、台湾）についてチャーター便の継続実施を踏まえ、定期便化を働きかけていくとともに、東南アジア・中国市場などの新規エリアからの積極的な誘致を進める。 なお、スカイマークについては、経営基盤確立後の再就航検討が表明されていることから、引き続き情報を収集し、路線復活に向け働きかけるとともに、官民一体となった利用促進に取り組んでいく。 ※H26年度のチャーター便実績：香港路線26往復、台湾路線4往復、タイ路線2往復、韓国路線1往復 国際航空便就航促進事業 40,716千円</p>
<p>2 奨学金返還（一部）免除は、対象者をあまり限定すべきでない。 効果についてよく検討し、効果があがる分野は対象とすべきである。</p>	<p>「鳥取県未来人材育成基金（仮称）」を設置し、県内の関係業界団体等の協力（基金への出捐）が見込まれる、県内の製造業、IT企業、薬剤師の職域（薬局、病院、医療機器、医薬品製造業）に就職する者の奨学金返還額に対する助成制度の創設を、6月補正において検討している。 基金造成に協力した団体の関連業種にしたがい、当面は人材不足が著しい業種への就業者を対象とするが、基金への協力、波及効果や雇用情勢の変化等を踏まえ、適宜見直しを行いたい。 【6月補正】鳥取県未来人材育成基金設置事業 201,853千円</p>
<p>3 認知症対策について 団塊の世代が75歳以上となる2025年には、認知症の高齢者数は65歳以上の5人に1人に当たる700万人に達すると見通しを示す。 「認知症施策推進総合戦略」新オレンジプランの下、可能な限り住み慣れた地域で暮らし続けられるよう積極的に施策を推進すること。</p>	<p>認知症対策については、新オレンジプランを踏まえて、本年度の「認知症総合対策（認知症サポートプロジェクト）事業」で、「普及啓発」「予防」、認知症の進捗に応じた「支援」、これらを支える「人材の育成」に総合的に取り組み、認知症が発症した場合でも可能な限り今までどおりの生活ができるような支援を行っていく。 特に、予防・早期発見を進めるためには、高齢者のみならず幅広い世代に対する認知症の理解・普及啓発が重要であり、県としては、認知症の日本人の声を発信する会議の開催の支援について6月補正で検討している。 【6月補正】日本認知症ワーキンググループ会議in鳥取 2,000千円</p>
<p>4 病児・病後児保育について 鳥取県立中央病院では、平成25年1月より外部に運営を委託し、病院に勤務する職員のお子さんを対象に、院内保育所を開設している。 外部にも利用できるように取り組み、東部地域が安心して子育てができる環境づくりに取り組むこと。</p>	<p>中央病院が行っている病児・病後児保育は、看護師を始めとする医療従事者を確保するために、いわゆる企業内保育として病院独自で行っているものである。一般県民向けの施設の設置・運営は市町村が主体となるため、まず、地元鳥取市に提言の趣旨を伝えるとともに、鳥取市の設置意向や運営形態、病院職員の子どもの受入がどうなるのか等を聞いた上で検討したい。 なお、病児・病後児保育の設置・運営は、市町村が地域の実情に応じて検討・実施しているが、東部地域の市町村間の連携が進むよう、5月下旬に市町も交えて関係者で検討を開始することとしている。</p>

要望項目	左 に 対 す る 対 応 方 針 等
<p>5 健康マイレージ制度は、健康診断項目の改善度なども評価に入れ、具体的に推進を図ること。</p>	<p>健康マイレージ及び健康経営マイレージ制度は、スタートして1年が経ち、実施市町村、事業所が増加しているところである。</p> <p>健康診断結果の改善度等を評価のポイントに入れることは、参加者にも分かりやすくなるとともに、制度に取り組む市町村等の増加も期待できる重要なポイントであり、実施主体である市町村や協会けんぽ鳥取支部に働きかけてみたい。</p>
<p>6 岩がき「夏輝」の資源回復</p> <p>鳥取県の夏の海の味覚として定着している、岩がきの資源回復としてイワガキの幼生が着床できるように岩盤清掃する漁協への潜水用具の助成をすること。</p>	<p>資源増大のため、県としてはイワガキ礁の設置（漁業者負担なし）、養殖用種苗購入費の支援及び簡便な岩盤清掃手法の開発等に取り組んでいる。設置後の清掃に必要な潜水用具等については、今後関係者の実情を調査して検討する。</p> <p>なお、イワガキ礁の設置にあたっては、漁業者の意見も聞きながら可能な限り清掃等の管理が容易な浅場等へ設置することとしている。</p> <p>（参考）水産基盤整備事業（イワガキ礁設置） [事業期間] 平成25年度～平成28年度 [事業費等] 751,467千円（県内11地区に2,520基のイワガキ礁を設置）</p>
<p>7 緊急輸送道路の総点検</p> <p>近年、道路の陥没事故が発生している。鳥取県の緊急輸送道路の安全対策として路面下空洞調査、橋梁床版抜け落ち予防調査等によるインフラの脆弱箇所の点検を推進すること。</p>	<p>緊急輸送道路だけでなく全ての県管理道路を対象に、平成25、26年の2カ年で河川沿いの道路や横断管敷設箇所などの危険箇所の路面陥没調査（空洞調査）を実施し、現在点検結果に応じた修繕を進めている。また、全ての橋梁を対象に床版の抜け落ちを含む施設点検を平成26年度末までに完了し、点検結果に基づき長寿命化計画を改定し計画的に修繕を行っていく。今後も、橋梁だけでなくトンネル、道路付属施設など老朽化の進む道路施設について定期的な点検を進めていく。</p>